様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ２９ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ０３０９８

研究課題名（和文）IT技術を活用した大学における学生相談活動の新しい自己評価アセスメント法の開発

研究課題名（英文）Development of a Web-based Self-Evaluation Assessment Tools for Student Counseling Activities on Universities and Colleges

研究代表者
福盛　英明（Fukumori, Hideaki）

九州大学・キャンパスライフ・健康支援センター・教授

研究者番号：４０３０４８４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、より包括的・簡便に学生相談活動の形成的自己評価に用いることができるWeb版「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」システムの開発を目的とした。まず、評価表として用いるために、「学生相談機関充実イメージ表」を「評価尺度」「評価観点」「評価基準」の観点から見直し、デジタルに対応した入力形式に対応するために課題を同定し、見直しを行い、自己評価の手引を改訂した。試用調査を行った結果、Web版でも「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」による形成的自己評価機能は十分に確保されていたが、システム不具合やコンテンツの量の過多などの課題が残された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまで大学教育において、学生の統合的学習の説明責任に答えるには、正課教育だけでなく学生支援に関するアセスメント(自己評価)も重要になってくる。これまでの自己評価のやり方では、現状分析・成果分析のみに注意が払われすぎ、実施負担も多く評価者の「元気を奪う」ものになっている。我々はこれまでに「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」を開発したが、より簡便に形成的自己評価をおこなうことができるweb版「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」を開発、Webサイトに公開したことによって、学生相談機関が無料でかつ自由に形成的自己評価を行えるようになった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop "The Web-based Assessment Package of College Counseling Center Activities" system that can be used for formative self-assessment of student counseling activities in a more comprehensive and simplified manner. First, the "The Inventory for Developing Counseling Services in Japanese Universities and colleges" was reviewed from the perspectives of "evaluation scale," "evaluation perspective," and "evaluation criteria" for use as an assessment chart, and issues were identified and revised to accommodate a digitally compatible input format, and the self-assessment guide was revised. As a result of the trial survey, "The Web-based Assessment Package of College Counseling Center Activities" was sufficient for formative self-assessment functions, but issues such as system malfunctions and excessive amount of content remained.

研究分野：学生相談学、臨床心理学、高等教育

キーワード：学生相談の自己評価　学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ　形成的評価　Web版　学生相談機関充実イメージ表　学生相談プログラム充実イメージ表

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

大学教育において質の保証の観点からアセスメント(自己評価)が重視されている。大学教育において、社会に対する説明責任を果たしつつ大学の自主性・自律性を尊重するためには、各大学における自己点検・評価の取組を充実・深化させることが極めて重要である(中央教育審議会,2008)。これまで大学教育は、正課教育と学生支援とに分断され、それぞれの学びを統合する役割は学生個人に任せられてきた（小貫,2014)。だが、学生の統合的学習の説明責任に答えるには、正課教育だけでなく学生支援に関するアセスメント(自己評価)も重要になってくる。しかし現状の自己評価のやり方では、現状分析・成果分析のみに注意が払われすぎ、実施負担も多く評価者の「元気を奪う」ものになっている。そこで我々はこれまでにアメリカの CAS や IACS 機関認証評価等を元に、学生相談「機関」の充実度をアセスメントする我が国初となるツール「学生相談機関充実イメージ表」を開発した(福盛ら,2014)(平成 21～23 年度科研費基盤(C) 21530692)。また、それを発展させ、学生相談機関とプログラムの両方から振り返りと課題の同定、充実に向けたビジョンを得ることができる「学生相談機関充実イメージ表」「学生相談プログラム充実イメージ表」を統合した「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」（Fig.1）を開発してきた(平成 27～29 年度科研費基盤(C) 15K04131)。その結果、学生相談機関やプログラムの現状や活動を振り返りながらこのパッケージの項目に従って記入してゆき、最後に視覚化した結果を見ることで、機関自身にとって機関やプログラムの発展のイメージが明確になり、組織・活動の見直しを未来志向で行うことが可能になることがわかっている。

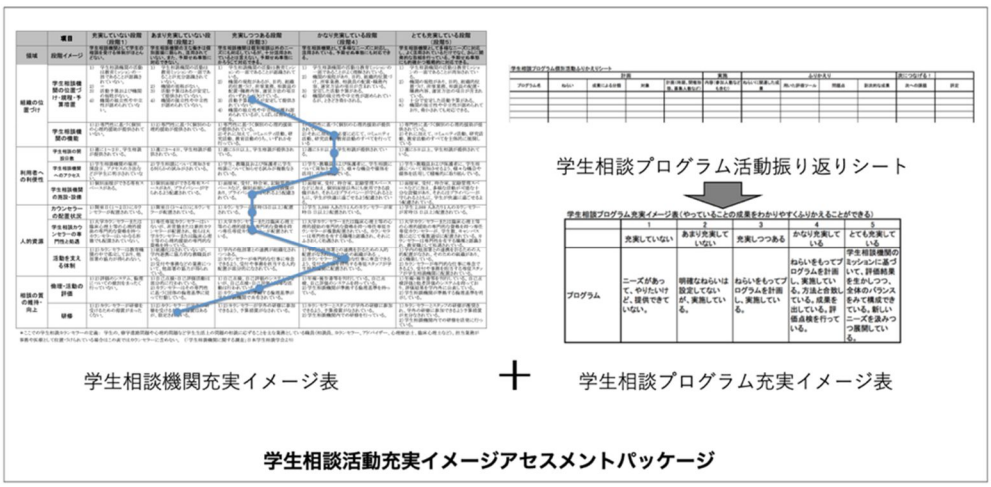

Fig.1　「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」のイメージ

２．研究の目的

これまで我々が開発してきた「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」は、紙媒体であり、対面でチームで振り返りを行うことを前提に設計されている。また、「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」は、記入することによって自校の学生相談機関やプログラムの充実度を確認し、今後どのように充実させたらいいのかについてのイメージを得ることを目的としており、学生相談活動の自己評価基準として用いるには課題がある（福盛ら,2014)。

ところで、評価といえば活動実績(来談件数、主訴、スタッフ等)、プログラムの実施実績などの成果の報告のような、達成度を測り説明しようとする「総括的評価」のイメージが強いが、“発展途上”のプログラムのプロセスを評価し、より安定化させ、プログラムの改善・発展につなげ

ようとする評価もあり、形成的評価と呼ばれている。「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」は、組織の改善に役立てる時に役立つツールであり、評価の目的は「アカウンタビリティ」よりは、「改善」に重きをおいているため、ルーブリックに似ている手法を用いており、簡便的に形成的評価を行う際のツールにも活用できると考えた。

本研究では、より包括的・簡便に学生相談活動を形成的に評価し、結果を他大学の現状と即時的に比較しつつ可視化することを可能にする、Web 版「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」システムを開発することを目的とする。

３．研究の方法

（１）Web 版「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」のプロトタイプの開発

Web 上で入力し、結果を可視化できるように、データをオンラインで自動送信し集計したものを評価者にフィードバックすることで自己評価に反映させることができるシステムを開発する。

（２）Web 版「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」プロトタイプの試行調査

研究参加機関を募り、実際に作成された Web 版「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」プロトタイプを試用してもらい、①学生相談活動の自己評価機能が損なわれていないか、や使用感のシステムの評価②不具合の有無や原因の同定、を行う。

（３）Web 版「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」プロトタイプの改良

（１）（２）の結果から、Web 版「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」プロトタイプの改良を行う。

４．研究成果

（１） Web 版「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」のプロトタイプの開発

① システムの仕様の検討

まず全体の構成を「トップページ」「会員登録・ログインページ」「モジュール１：機関基礎情報」、「モジュール２：機関評価」、「モジュール３：プログラム評価」、「モジュール４：その他の指標」、「モジュール５：アクションプランニング」、「結果確認と交流（総合評価）（交流サイト掲示板）」、管理者が管理を行う「管理ページ」とした。

ログイン方法は、会員登録を行ったあとパスワード認証を使ってログインするシステム採用し、学生相談機関の自己評価担当者だけがアクセスできるようにした。

モジュール１では「機関基礎情報」として、各機関の名称や将来的に規模別に分析可能にするための大学の学生数、カウンセラー数などを記入する仕様にした。

モジュール２の「機関評価」では、これまで紙媒体でルーブリック形式での「学生相談機関充実イメージ表」を Web 上に実装するに際し、「学生相談機関充実イメージ表」を用いた形成的評価を行う際の課題について整理した。成瀬ら（2015）は、「学生相談機関充実イメージ表」を用いて学生相談機関の発展についての自己評価を行っているが、「発展の軌跡を視覚化することにより、発展が滞っている領域を把握することも容易」であり「発展の各段階において達成されたことを領域別に整理し、大きな枠組みの中でとらえなおすことが可能になったという点で大変意義深いもの」として活用が期待される、と述べている一方で、評価基準としては①程度を表している言葉に抽象的な表現がある②評価の結果と現場の実感のズレがある③「研究」などの領域の見直しの提案、などの課題を指摘している。これらを踏まえ、従来の「学生相談機関充実イメージ表」自体を見直すことにした。ルーブリックは「評価尺度」「評価観点」「評価基準」から成り立っているという（河村,2018）。「学生相談機関充実イメージ表」を形成的評価に活用で

きるようにするために、ルーブリック評価の３つの視点から「学生相談機関充実イメージ表」の課題、改良点を抽出した。「評価尺度」については５段階の充実度レベルとその説明を具体的な例示を作りながら検討した。その結果、充実度４～５の区別が困難であることが明らかになり、「評価観点」「評価基準」からは、18 の改良課題が抽出された。これらの検討の結果から段階の区別や記述のあいまいな点をなくす必要性が明らかになり（福盛ら,2020）、「学生相談機関充実イメージ表」の一部を改良した（福盛ら,2021）。

また、入力方法について、ルーブリック形式のままでは字が小さくなり見にくくなること、また入力しにくいことから、チームで議論を重ね各領域ごとに分解し、各段階の状態像を記述した文章をラジオボタンで選択する方法を採用した（Fig.2）。

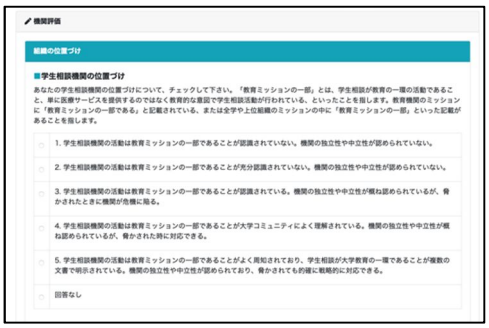

Fig.2 機関評価の入力画面

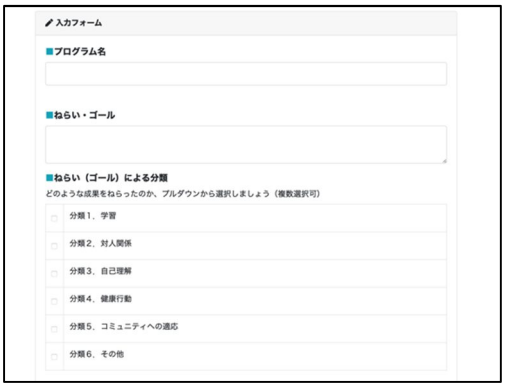

Fig.3　プログラム評価の入力画面

モジュール３、「プログラム評価」においては、これまで紙媒体では手書きで書くしかなかった活動を、電子上で簡便に記入できるようにした。入力フォームには、プログラム名、ねらい・ゴールと分類、対象、計画、内容、結果・ねらいに関連した成果、用いた評価ツール、問題点、副次的な成果、次への課題、個別充実度評定（5 段階の自己評価）の項目を準備した。

モジュール４、「その他の指標」では、自由記述形式で「教育活動」、「コミュニティ活動」、「実践研究活動」、その他の活動」、「上記以外で力を入れている活動」、最後に「総合評価」を記入できるようにした。

モジュール５「アクションプランニング」では、「学生相談機関基礎情報」「学生相談機関充実イメージ表」「学生相談プログラム充実イメージ表」「その他の学生相談機関の充実度」の結果にについて、学生相談活動の充実をエンパワメントすることを目指し「活動を振り返っての気付き（特に長所・頑張っているところ・維持していきたいところ・課題など）」「今後実現したいこと・未来展望・アクションプランについて」を自由記述で入力できるようにした。

「結果確認・交流」では、「総合自己評価」では、これまでに記入した結果を一覧として表示できるようにした。また「交流サイト（掲示板）」では評価担当者が交流できるように電子掲示板を用意した。

これらに加え、Web 上での入力に対応できるようにした「評価マニュアル」を作成した。

②2022 年はじめより新型コロナ感染症流行の影響を受けて、全国の学生相談活動そのものが大きな影響を受けた。学生相談活動の自己評価を行う際に、新型コロナ感染症流行前の学生相談活動と一貫性をもって評価することが困難になることが想定された。そこで、各年度ごとにわたって自己評価をすることができるシステムに変更する仕様に改装した。

③自己評価の手引について、用語の定義な状態像の記述があいまいなところがあったので、全面的に改訂を行った。

最終的に、Web 入力ができるプラットフォーム（Fig.1）、ランディングページ（Fig.2）や管理

ページが完成した（福盛,2021）。

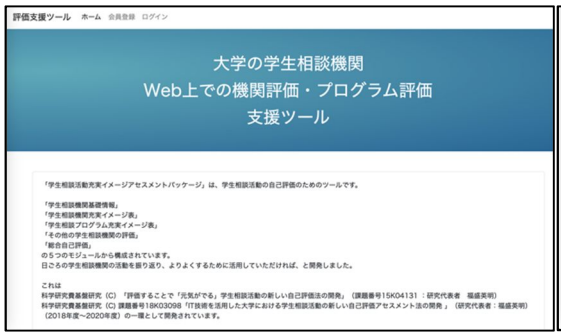

Fig.4　トップページの一部

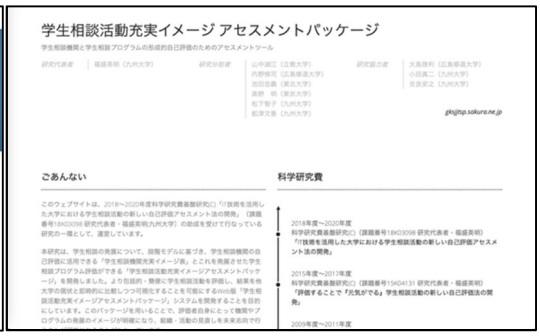

Fig.5　ランディングページの一部

（２）Web 版「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」プロトタイプの試行調査

Web 版「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」プロトタイプを実際に使い、2019 年度、2020 年度の活動の形成的評価を行う試行調査を行った。学生相談機関代表者協議会、九州・沖縄地区学生相談ネットワークで調査参加機関を募集し、日本版システムユーザビリティスケール（SUS）（山内，2016／原文：Brooke，1996）、評価所要時間、自己評価の経験や使いやすさを問う質問への自由記述で回答を求めた。15 機関が参加、実際に試用し９機関が回答した。記入時間の平均は 40.6 分、SUS の得点は 61.9（SD = 12.7)であったが、Brooke（2013）によれば SUS の平均は 68 であるため、より使いやすく変更する必要があることが明らかになった。自由記述では、「気づきにくかった点に気づいた(3)」、「課題、強化すべき点、強みを認識した(5)」があった一方で改善点として、「システムエラーについて(8) 」「ボリューム感(2)」の回答があった。また詳細に検討するために、２機関（私立１機関、国公立１機関）に試用してもらいインタビュー調査を行った。「批判的になりすぎず振り返ることができたので、相談所の未来に希望が持てた。」「Web の方が使いやすい。しかし、紙ベースの方が一覧できる利点があると思う。」「結果をグラフや図で直感的に示せると良いと思う。」「普段、自分のセンターを俯瞰して見る機会がないため、項目に沿って振り返ることで不足しているポイントや強みを確認することができた。」「Web 上で誤植があったので、修正する必要がある。」などが語られた（() 内は言及数)。試用調査からは、Web 版でも「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」の機能は十分確保されていると考えられたが、システムの不具合へやコンテンツの量が多すぎることに関する課題が残された。これらの結果は研究代表者を筆頭発表者として国際学会で発表した（Fukumori et al.(2022) APA Minneapolis)。

（３）Web 版「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」プロトタイプの改良

システムの不具合についてはできるところは改善し、多くの学生相談機関が利用できるように Web サイトに「学生相談活動充実イメージアセスメントパッケージ」公開した（https://gksjjtsp.sakura.ne.jp/lp/)。しかし、予算的な制限の中ではすべてを改良することができず、技術的に改善困難な点やユーザビリティの高めるデザインの向上等の課題が残った。またコンテンツの量が多いという課題については、そもそも形成的自己評価に用いる場合は、詳細に活動を見直し全体を俯瞰する必要があること、そのためには単に簡便化することだけを目指すことが目的とはならないので、今後の研究の課題となった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 福盛英明、舩津文香、山中淑江、松下智子、高野明、大島啓利、内野悌司、池田忠義、小田真二、吉良安之	４．巻 6
２．論文標題 「学生相談機関充実イメージ表」を形成的評価ツールとして活用する際の課題の分析	５．発行年 2019年
３．雑誌名 九州大学学生相談紀要・報告書	６．最初と最後の頁 67-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 福盛英明
２．発表標題 IT技術を活用した大学における学生相談活動の新しい自己評価アセスメ ント法の開発
３．学会等名 日本学生相談機関代表者協議会(オンライン)(2021.2.27. 15:00-16:00)
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 福盛英明・高野 明・山中淑江・大島啓利・・内野悌司 ・松下智子・池田忠義・舩津文香
２．発表標題 学生相談活動の自己評価ツールの開発ー学生相談プログラム充実イメージ表（プロトタイプ1.0）作成と試用
３．学会等名 日本学生相談学会第37回大会 （大妻女子大学・東京）
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 Fukumori,H., Oshima,H., Yamanaka, Y.,Takano, A.,Matsushita,T.,Uchino,T.,Ikeda,T.
２．発表標題 The development of Web-based tool for formative self-assessment of college counseling center Sprouting research for usability and usefulness of this tool in Japan
３．学会等名 American Psychological Association (APA)（国際学会）
４．発表年 2022年～2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

学生相談活動充実イメージ アセスメントパッケージ https://gksjjtsp.sakura.ne.jp/lp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	内野　悌司 (Uchino Teiji) (00294603)	広島修道大学・健康科学部・教授 (35404)	
研究分担者	山中　淑江 (Yamanaka Yoshie) (10267388)	立教大学・現代心理学部・カウンセラー (32686)	
研究分担者	松下　智子 (Matsushita Tomoko) (40618071)	九州大学・キャンパスライフ・健康支援センター・准教授 (17102)	
研究分担者	高野　明 (Takano Akira) (50400445)	東京大学・相談支援研究開発センター・教授 (12601)	
研究分担者	池田　忠義 (Ikeda Tadayoshi) (70333763)	東北大学・高度教養教育・学生支援機構・教授 (11301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	舩津　文香 (Funatsu Fumika) (80778928)	九州大学・キャンパスライフ・健康支援センター・講師 (17102)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	大島　啓利 (Oshima Hirotoshi)	広島修道大学・学生相談室・カウンセラー (35404)	
研究協力者	吉良　安之 (Kira Yasuyuki)	九州大学・名誉教授 (17102)	2021年度まで。

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関